

シールがつなぐ「カワイイ」

あなごきん

ANOTOKI
SOREKANA

平成7年
(1995年)

明治 大正 昭和 平成

プリクラ誕生

- 1995年 96年 「プリント倶楽部」発売。女子高生にルーズソックスが大流行。コギャル現象。ポケベルの流行ピーク
- 97~99年 2000年秋 第1次プリクラブーム。仕上がり調整機能や、落書きが出来る新機種が続々と登場。第2次プリクラブーム
- 04年 ケータイ小説が女子高生らに人気。プリクラの撮影データを携帯電話にダウンロードできる機種登場
- 05年 第3次プリクラブーム
- 06年 ブログや携帯電話での自己紹介サイト(プロフィール)が普及、女子中高生にも人気に
- 07年 ギャル系ファッション雑誌が売れるなどギャル文化がピーク
- 08年 ツイッター日本語版が登場。「iPhone」発売開始
- 10年 アイドルグループ「AKB48」の人气がブレイク

昨今のはやりものの一つに「自撮り」がある。携帯電話のカメラ機能やデジタルカメラで自分を撮り、多くはそれをソーシャルネットワーク上で他者に披露している。

10年ほど前、「自撮り」によく似たブームがあった。写真シール作製機、いわゆる「プリクラ」ブームだ。

プリクラが誕生したのは1995年7月。ゲーム会社「アトラス」(当時)の女性社員が、女子高生たちが色々な持ち物にシールを貼っていることに着目したアイデア。セガ・エンタープライゼスと「プリント倶楽部」を共同開発した。

ところがこの元祖プリクラ、船出は険しかった。「自撮り」の販売促進を担っていたセガの山本健三(現セガ・ロジスティクスサービス社長)は振り返る。「当初は売り上げがきわめて悪く、全国のゲームセンターからクレームの嵐。返品要望も相次ぎました」。当時のゲームセンターは「男の世界」。少女たちとの接点なかったのだ。

そこで山本さんはプリクラを店先で実演する「全国行脚」を敢行。8月から約2カ月間、九州や関西、北海道を回った。「10月に初めて追加注文が入りました。9月に回

さらに少女たちは、撮ったシールを友達と交換したり、「プリ帳」を見せ合ったり始めた。都内の会社員、清水絵梨さん(24)は語る。「一番はまった時期には、ほぼ毎日撮ってましたね。1



●1996年、ゲームセンターに並んだ「プリント倶楽部2」に列をなす少女たち
●大阪市北区の商業ビル「梅田ジョイポリス」に並ぶプリクラ。ビル内で売られている洋服を試着して撮影できる—いづれもセガ提供



びっしりシールが貼られた「プリ帳」

だが稲垣さんはいう。「プリクラ」と「自撮り」とは別物です。楽しい時間をシールに記録し、モノとして共有できるプリクラは、『女の子の文化』として定着しました。この日本独特の文化は、女の子たちに引き継がれていくと思

プリクラ開発に協力した調査会社社長

中村 泰子さん



盛った自分 SNSにも

2002年春ごろから8年間ほど、彼女たちのこだわりが機種でプリの開発に協力しました。のべ約5千人の女子高生に、現行機種の評価や完成間近の新機種のテストなどに協力してもらったんです。写りの仕上がりに対する細かい要望や、落書き文字のフォントやスタンプの形など、自分を美しく「盛れ

ど、彼女たちのこだわりが機種作りになされました。女子高生好みの機種が次々と生まれたことで、「みんなの遊び道具」から、若い女の子たちだけの遊び道具になりました。

ブームが一番熱かったのは05年前後です。「美肌」や「つや髪」など、自分を美しく「盛れる」新機種が出たこと、そして「プリ帳」全盛期。当時は「プリ帳」が女の子たちの重要なコミュニケーションツールでした。見せ合うことで交友関係や美的センスが一目で確認できましたから。

関心はSNSに移りました。女の子たちはプリで盛った自分をSNSにアップして、他人にほめてもらって楽しんでいました。SNSとプリは、切っても切れない文化です。

プリで遊ぶことで女の子たちは自分を一番かわいく見せる方法を体得しました。「日本の女子・総力ワイイ」現象です。写り方を研究し、補正機能を使いこなした「プリ世代」の基準は厳しいから、スマホの写真アプリもその基準をクリアしたのになっ

◇次回は「風営法制定」の予定です。